



学年・ 専門部	評価項目 + 課題(目標)	課題に対する取組	評価指標と活用する外部アンケート	前期の成果と後期へ向けて	評価点 (5段階)	各年度・ 専門部	今年度の成果と次年度へ向けて	学校評議員からの提言
教務部	③ 観点別評価	職員全体で評価法、評価基準について取り組む。とりわけ各教科ごとに明確な評価基準を提示できること。	妥当性、正当性をカリキュラム委員会や成績会議を通して確認していく。アンケートとしては生徒の授業評価アンケートにおいて評価についての記述があるかどうかを確認する。	一学期の成績として、観点別評価を付けていただいた。各教科重みや評価材料はさまざまであった。本校では生徒通達で、成績評価のみであるので、観点と評価の整合性が念頭に置かれた。そのために観点と評価の対応表を独自で作りその範囲内で評価することを希望する。ということで本年度は行った。夏休みに各教科より観点算出方法や報告していた。教科間の相違を減らす努力はしてきた。始まって一年目であり、正確に見えていないが、各教科の意図ながら、観点点を算出する。今後は、生徒通達や成績評定と合わせ、観点点との相違性も高まると考えられるので、そのことを検討していきたい。	4.1		今年度の成果と次年度へ向けて	学校評議員からの提言
	① 科目選択	科目選択ガイダンス 教科ガイダンス 科目選択ガイド キャリアカウンセラー	生徒実態調査 授業評価アンケート 学校評価アンケート	2年次の科目選択については、担任間で調整していただいている。教務部は、ガイダンスの実施や選択人数の把握と人数調整の作業を行っている。生徒がどの程度、進路に関して意欲的に検討しているかはわからないが、しっかりと考えている生徒は、教務担当の先生を利用して、質問等を積極的に行っている。1年次に限らず、1年次にガイダンスを行い、BYODで端末からの科目選択を行っている。またキャリアカウンセリングも夏前に続き、9月面談を実施している。新課程で時間割を考えながらであるが、いろいろと問題が生じそうである。	4.2		今年度の成果と次年度へ向けて	学校評議員からの提言
	① 科目選択			2年次の科目選択については、担任間で調整していただいている。教務部は、ガイダンスの実施や選択人数の把握と人数調整の作業を行っている。生徒がどの程度、進路に関して意欲的に検討しているかはわからないが、しっかりと考えている生徒は、教務担当の先生を利用して、質問等を積極的に行っている。1年次に限らず、1年次にガイダンスを行い、BYODで端末からの科目選択を行っている。またキャリアカウンセリングも夏前に続き、9月面談を実施している。新課程で時間割を考えながらであるが、いろいろと問題が生じそうである。	4.3		今年度の成果と次年度へ向けて	学校評議員からの提言
進路指導部	①	生徒個々の進路実現のためより充実した進路指導体制の構築。	生徒を取り巻く状況や進路希望を把握するため、年次・総合学科推進部との連携を密にし生徒個々についての情報を共有する。	進路指導部主催のプログラムについて内容・実施時期を吟味し「産社・課研」との関連を図る。拡大進路指導部会を充実させる。	各年次・総合学科推進部との連携を密にし、生徒個々についての情報を共有できた。		今年度の成果と次年度へ向けて	学校評議員からの提言
	①	生徒個々進路実現のための資質向上を図る。	生徒個々の資質の向上のため細やかな指導を行う。個人面談やガイダンスを通じて意識の向上と正確な進路判断を促す。	個々のカリキュラム選択に際して個人面談を行う。基礎学力の向上を図るとともに様々な進路実現のため積極的な検定取得を促す。	生徒個々のカリキュラム選択に際して個人面談を行ったり、生徒の資質の向上のための細やかな進路指導を行うことができた。		今年度の成果と次年度へ向けて	学校評議員からの提言
	②	アドバンスクラスにおいて進学を前提としらる進路実現のために努力できる生徒を育てる。1～3月の一般入試で粘り強く挑戦できる生徒を育てる。	アドバンスクラスに対するガイダンスや進路講話等のプログラムの充実。各種検定への積極的な案内。	適切な時期に講話を入れる。あるいは卒業生の体験談などを通じて継続的な学習の持続を促す。	進路講話や分野別進路ガイダンス、そしてアドバンスクラス対象の大学見学会等のプログラムを充実させることができた。	3.3		今年度の成果と次年度へ向けて
生徒指導部	④	日常生活のマナー向上と基本的生活習慣を確立させる。	服装違反・遅刻等の指導を徹底する。服装・頭髪検査を定期的に行う。	服装・頭髪・遅刻等、繰り返し指導される生徒と、なぜ繰り返し指導されるのかを共に考え原因を追究し、再び繰り返させないように定期的に面談等を実施する。	服装頭髪検査において、違反する生徒はほとんど見られなくなってきている。繰り返し指導される生徒については、原因を共に考え長期的に指導を継続していく。		今年度の成果と次年度へ向けて	学校評議員からの提言
	④	学校内外において、自分の行動に責任をもち「三木東高生」としての自覚と誇りをもたせる。	校内外において、交通ルールやマナーを守り、他者の迷惑になるような行動は慎むよう注意喚起する。	苦情電話は地域の期待のパロメーターとらえ、苦情があった際には直ちに現場に赴き再発防止に努める。	一定数の苦情が来ている。今年度は交通ルールに関する苦情が非常に多い。交通ルールを自ら守る力の育成や交通ルールについて学ぶ機会を設けたい。		今年度の成果と次年度へ向けて	学校評議員からの提言
	④	部活動に積極的に参加させ、活気ある学校づくりを目指す。	体験入部を3日間実施し、入部を喚起する。部活動dayを月1回設け、教員が積極的に生徒に関わる。	全校生の入部率80%以上、部活動を1年間継続率を85%を目指す。	例年、1年次が多く退部する傾向にある。今年度は1年次の継続率が高い。	3.4		今年度の成果と次年度へ向けて
総合学科推進部	⑤	家庭・地域・中学校など関係機関への積極的な情報発信。	NetCommonsによるシステムをより改善したものに構築し、総合学科推進部の一括集束の更新における負担を軽減する。教職員全体でホームページなどで学校行事や生徒の活躍の様子、近況などを広く印象的に伝える。	ホームページ毎週更新の実施。総合学科通信の年12回以上の発行。各部署へのNetCommons操作方法の指導を含めた広報委員会の実施。各部署の更新状況の記録。	4月実施の広報委員会や職員会議を通した各部署への広報への協力の依頼は一定の成果を挙げている。学校ホームページでは、各部署毎の「更新状況の見え化」がされており、今後も各部署への呼び掛けを心掛けた。総合学科通信は、月1回現在第10号まで発行できている。年間10回ペースであり、かつ、内容を重視した形式で発行することができた。今後も、広報活動に関与して引き続き積極的な活動していきたい。	4.1	今年度の成果と次年度へ向けて	学校評議員からの提言
	⑤	教育内容に関する家庭や地域などの理解の促進。	開催するオープンハイスクールや学校説明会ごとに参加者に合わせた多様な取り組みを行う。	オープンハイスクールにおける参加者数250名以上、アンケート回収率70%以上。	3年振りの実施となった5月末の中学校教員対象学校説明会には18校の中学校教員が出席した。7月実施の夏オープンハイスクールについては、中学生355名に、保護者や中学校教員を含めた合計448名の参加があり、アンケート回収率はほぼ100%だった。実施内容（総合学科に関する説明、体験授業、懇談会）に対する満足度は、すべての項目で100%に近い結果となっており、北播磨地区唯一の総合学科高等学校として、コロナ禍においてオープンハイスクールの実施は十分な成果を得られている。11月に実施される第3学区統一オープンハイスクールでも、引き続き努力していきたい。	4.1	今年度の成果と次年度へ向けて	学校評議員からの提言
	③	総合学科に携わるうえで必要な教員の資質の向上。	総合学科における取り組みの成果と課題を全職員で共有し、専門性を高める。令和4年度入学生に対する、単位数変更に伴うキャリア教育年間指導計画の見直し。	新着任教員研修会における本校総合学科の学びの共有化。(4月) 本校総合学科発表会において本校職員・生徒・地域の方々への学びや成果の共有化。(1月) 年度末の職員研修の実施。(3月)	4月実施の新着任教員研修会は、限られた時間の中での本校の学びについての共有化をはかることができた。今年度は、異の総合学科発表会を開催するため、より一層の本校の学びや成果の共有化をめざしていきたい。また、今年度入学50回生からキャリア教育の教育課程が変更されたため、取組内容を周知させることが今後重要となる。	4.0	今年度の成果と次年度へ向けて	学校評議員からの提言
保健部	①	生徒の進路保障につながる実践内容の充実。	高校3年間を見通した効果的なキャリア教育のカリキュラムマネジメントを行う。本年度は県の総合学科発表会の主催者であるため、本校の取組を県の総合学科校に知ってもらう良い機会となる発表会を実施する。	アンケート回収率90%以上。 アンケート対象者満足度80%以上。	本校では、総合学科発表会のアンケートは1月下旬の発表会当日に実施予定である。対象者の満足度が十分に達成できるように、企画・運営をしていきたい。	3.9	今年度の成果と次年度へ向けて	学校評議員からの提言
	④	心身の健康に関する総合的な知識と体験を高め、自己管理ができるようになる。	保健委員による豆知識の昼休み放送・ハンドソープの点検補充・水質検査・教室環境整備やその他の活動で、全校生徒へ生徒主体の発信を充実させ、健康管理に対する関心を深めるきっかけとする。	保健委員の活動率が95%以上にする。	保健委員の活動率は95%以上達成できている。昼休みの豆知識の放送では、心身の健康に関するタイムリーな内容や、保健部が担当する人権教育項目の内容について、保健委員が主体的に調べ、全校生に届けことができていた。校内のハンドソープ補充の仕事も遂行している。	4.2	今年度の成果と次年度へ向けて	学校評議員からの提言
	①	心身の健康に関して自己対処能力を養い、高校生としての資質を高める。	内科的・外科的・精神的な領域において、保健室経営や保健室でのその他の対応を通して、生徒の自己対処能力を高める働きかけを行う。(在学中だけでなく、将来を見据えて、「困ったときは(周知)相談できる力」や「自身の健康管理能力」を養うことも含まれる。)	生徒や保護者が相談しやすい相談窓口としての役割を強化すると。個別対応において、「自己静観したり解決に向けた対応ができないケース」や「不定愁訴による来室」を、10%以内にする。	相談に来る生徒が多いことから、保健室が「相談しやすい窓口」の役割として機能していると見える。心身のコントロールが上手いから内科的状態を訴える生徒に対しては、保健室と該当年次や顧問、管理職等で丁寧な対応を心がけている。キャンパスカウンセラーとも連携することで、自己対処能力の向上に寄与している。	4.0	今年度の成果と次年度へ向けて	学校評議員からの提言
事務室	③	生徒対応に必要な、生徒理解・緊急時対応力等、教員の資質の向上を図る。	保健部主体の研修会等を通して、生徒対応力向上を充実させる。(配慮を要する生徒情報共有研修会・エビデンス講習会・生徒支援委員会・個別の生徒対応・救急法講習会・教職員カウンセリングマインド実践研修・薬物乱用防止講話・がん教育講話・特別支援に関する研修)	教員が、研修内容を生徒対応時に多面的に活用できるようにする。	計画していた研修は実施でき、今後も計画通り実施予定である。生徒対応能力の向上に少しでも効果的になるような研修を目指している。個別の支援計画を作成している1年次の生徒に関しては、年次、担任、教科担当の教員も理解と支援をいただいた。全教員による理解を深める体制を構築過程である。	3.9	今年度の成果と次年度へ向けて	学校評議員からの提言
	①	年次・専門部の目標達成への協力	効率的な予算執行を行う。生徒の学習環境を金銭的な面から支援する制度について周知する。	購入希望物品を適正な時期に調達できるようにする。生徒、保護者に対する資料を分かりやすく工夫する。	・光熱水費や各種物品の値上げ等により、予算配分が難しい状況の中、緊急性の高いものから順次対応しているところである。 ・生徒・保護者への配布物については、掲示物や365ネットなども活用し、周知徹底できるよう工夫をしています。	4.3	今年度の成果と次年度へ向けて	学校評議員からの提言

報告・連絡・相談の徹底を図り、学生にとって有意義な予算執行をしてあげてください。